

令和 7 年度社会福祉法人湘南遊愛会事業報告

I 法人本部

新型コロナウイルスに関しては、一旦の落ち着きをみせているが、インフルエンザなどのさまざまな感染症が流行の兆しをみせた年となった。

それに伴い、感染拡大が始まった令和 2 年以降、当会施設の稼働については長く低迷が続いていたが、令和 7 年度では、ここ数年と比べ、入居者数、利用者数の安定・復調傾向が見られた。

ただし、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの新たな感染症への警戒は続ける必要があり、各施設も気を抜けない状況である。

そういった中、令和 2 年に開始した外国人職員採用については、新型コロナウイルス感染期間中はなかなか歩を進めることはできなかったが、当時蒔いた種が成長し、茎をのばし、花を咲かせる実りの時期を迎えることができた。

平均稼働率			
	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
ゆうあいの郷（本所）	92%	93%	93%
ゆうあいの郷衣笠（本所）	94%	91%	93%
ケアハウスゆうあい	94%	95%	98%
阿久和地域ケアプラザ デイサービス	90%	90%	95%

① 外国人人材

慢性的な介護職員不足を補うために、5 年前より外国人人材を積極的に採用。特定技能実習生では、すでに 5 年以上勤務した職員もおり、基礎知識、基礎技能も習得し、介護現場で日本人職員に交じって活躍している。今年度は、介護福祉士国家試験に受験する職員もいる。また、技能実習生は日本人職員の指導を受けながら、介護知識、介護技術の能力向上に努めている。

また、留学生として介護の養成校に学び、アルバイトの立場でありながら、当会で働いてきた学生も無事卒業し、介護福祉士の資格も取得し、当会施設で正職員として勤務を行っている。

すでに、介護福祉士を取得し、在留資格「介護」として、副主任として 3 名、一般職員として 3 名の職員が各々の職場でリーダーシップを発揮し、活躍をしている。

2026 年 5 月 1 日現在の在籍人数

	特定技能	技能実習	特定活動	留学生	介護	家族滞在	計
ミャンマー	12	5	0	0	2	0	19
インドネシア	10	0	0	0	0	0	10
中国	0	0	0	2	3	0	5
ベトナム	0	0	0	0	1	1	2
計	22	5	0	2	6	1	36

※留学生はアルバイト

令和 7 年度も特定技能実習生、留学生の受け入れを継続する予定

- ① 物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期運転資金借入について
物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期運転資金借入について
以下にて借り入れの申し込みを行なった。

・融資申し込み施設

ゆうあいの郷、ゆうあいの郷衣笠、ケアハウスゆうあい

・融資申し込み先

独立行政法人福祉医療機構

・借入金額

9000 万円 ゆうあいの郷、ゆうあいの郷衣笠、ケアハウスゆうあい、各 3000 万円

・償還期間

10 年以内 据え置き期間 2 年以内

・貸付利率

基準金利▲0.8% 契約締結時における金利が適用 2 年間無利子

・保証人 なし

2 人材開発部の創設

2025 年 7 月 15 日付で、法人本部の組織改編として、人材開発部を創設することを報告した。

3 海外出張旅費規程の新設

職員が理事長に同行して中国・インドネシアへ出張予定があるため、

これに対応するとともに、今後の海外出張に備えるため、海外出張の定義、出張申請・報告の手続き、旅費・宿泊費・日当の精算方法、旅行傷害保険の付保等について明確に規定として定めた。

- 4 常勤職員給与規程改訂（広域異動手当）について
基本給の連動から誤りの生じにくい定額制に改定することを行なった。
- 5 事務局長の解任について
諸般の事情にて、8 月 31 日付で事務局長の解任をし、当面の間空席とすることとした。
- 6 常勤職員給与規程改訂について
広域異動手当について、直線距離を原則とすることとした。
- 7 短時間労働職員給与規程について
2025 年 10 月 1 日より、最低賃金 1,225 円に改定することとした。
- 8 職員旅費規程について
健康診断受診時の交通費について、休日や夜勤明け等の職員が勤務時間外に健康診断を受ける場合の申請に基づき、日当(交通費などに充てる意味合い)として一律 1,000 円を支給する。これは非課税で支給することを定めた。
- 9 育児介護休業規程について
育児介護休業規程について、4 月 1 日、10 月 1 日の法改定にあわせて、規程の改訂をすることを定めた。
- 10 税理士事務所変更について
税理士事務所を 1 月 1 日より辻本郷税理士法人から亀山美代子税理士事務所へ変更することとした。
- 11 外国人職員住宅管理規程について
外国人職員住宅管理規程について、現在賃貸借をしている外国人職員住宅についてルールを定めることとした。
- 12 常勤職員給与規程改訂について
本部手当、初任者研修手当、実務者研修手当、簿記 2 級手当の新設、特殊業務手当の事務員への適応をすることとした。
- 13 ソーシャルメディア利用管理規程について
法人の広報活動などをするために、インスタグラムなどの SNS を活用するために、ソ

ーシャルメディア利用管理について定めた。

14 大瀧監事逝去に伴う自然退任、監事選任・評議員選任について

大瀧監事が逝去されたことに伴い、監事の自然退任をすることとなった。大瀧監事の後任として田中評議員を監事へ、田中評議員の後任として嘉代氏を評議員へする予定であることを報告した。

以上

令和 7 年度 社会福祉法人 湘南遊愛会

Ⅱ 特別養護老人ホーム ゆうあいの郷 事業報告書

1.総括

令和 7 年度は、稼働率向上、新規加算の取得（加算要件の整備）、職員の定着等による運営の安定化及び利用者の生活状況に適用したサービスを提供できるように努めました。

個々の取り組みについては、次の通りです。

2.運営状況

（１）稼働状況

令和 7 年度の稼働状況は、次のとおりでした。

<月別稼働率比較表>

	本入所				短期入所			
	令和 7 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 6 年度	
4 月	2,704	90.1%	2,885	96.2%	217	72.3%	206	68.7%
5 月	2,830	91.3%	2,894	93.4%	216	69.7%	185	59.7%
6 月	2,737	91.2%	2,865	95.5%	202	67.3%	172	57.3%
7 月	2,885	93.1%	2,927	94.4%	204	65.8%	139	44.8%
8 月	2,846	93.7%	2,876	92.8%	213	68.7%	195	62.9%
9 月	2,846	94.9%	2,814	93.8%	191	63.7%	156	52.0%
10 月	2,877	92.8%	2,838	91.5%	197	63.5%	106	34.2%
11 月	2,846	94.9%	2,804	93.5%	143	47.7%	83	27.7%
12 月	2,884	93.0%	2,929	94.5%	103	33.2%	81	26.1%
1 月	2,904	93.7%	2,878	92.8%	116	37.4%	141	45.5%
2 月	2,676	95.6%	2,504	89.4%	122	43.6%	166	59.3%
3 月	2,950	95.2%	2,811	90.7%	109	35.2%	148	47.7%
合計	34,044	93.3%	34,025	93.2%	2,033	55.7%	1,778	48.7%

稼働率は、前年度と比較し本入所が+0.1%、短期入所が+7.0%でした。

（本入所）

年度初めに退所者が続いたこと及び入所の声掛けを行った待機者の体調不良やご家族の意向による保留等が続き空床分を埋めきれなかったタイミングに入院者が重なったことにより 6 月まで 90%～91% のと低い稼働率になってしまいましたが、7 月以降、待機者の入所も進み、契約者数を 97.7%（昨年度累計平均 97.9%）に戻すことが出来たこと及び入院者が年間延べ人数 1,317 名（日平均 3.6 名）と昨年度の 1,681 名（日平均 4.6 名）に比べ日平均で 1 名減らすことが出来たことなどから年間の平均稼働率は昨年度とほぼ同じ稼働率となりました。

（短期入所生活介護）

長期で短期入所生活介護を利用して本入所を待たれるなど、本入所へ繋ぐ場としての役割が大きく、令和 7 年度も 12 名の方が短期入所生活介護を経て本入所されました。本入所への移行などもあり 12 月以降は稼働が減少してしまいましたが、20 名の新規利用者様と契約を行い、昨年度より高い稼働率を残すことが出来ました。

（2）加算取得等

令和 7 年度には、加算の算定要件を確認したうえ以下の 3 つの新規加算の取得を開始しました。

- ① 「サービス提供体制強化加算（Ⅲ）」（6 単位／日）…介護老人福祉施設、（介護予防）短期入所生活介護
- ② 「高齢者施設等感染症対策向上加算（Ⅰ）」（10 単位／月）…介護老人福祉施設
- ③ 「高齢者施設等感染症対策向上加算（Ⅱ）」（5 単位／月）…介護老人福祉施設

3.介護サービスの状況

（1）職員の確保及び業務の適正化について

・病気や怪我による長期休業の職員が複数いたこと及び特定技能実習生を中心とする退職者が相次いだことから常勤介護職員の人員不足が深刻となったことで、日雇いバイト「カイトク」の割合と職員にかかる負担が多くなってしまいました。

・無料のハローワーク・自社ホームページ・人材福祉センターや比較的安価なスカウト型求人サイトを中心としながら紹介会社経由も視野に入れ採用活動を行いました。紹介会社経由でも日勤常勤希望等条件に合わない方が多く、令和 7 年度に採用した常勤介護職員は 3 名となりました。

・令和 7 年度より本部職員を中心として開始した、福祉専門学校や高校生を対象とした新卒学生の採用活動では、未経験者ではあるものの 1 名の内定者を獲得することが出来ました。

（2）看取り介護について

施設での看取りを選ばれた利用者様に寄り添いながらその人らしい人生の最期を迎えるお手伝いを行えるようご家族の意向を確認し多職種で話し合いを行いながら5名の方の看取り介護を実施しました。

4.安全対策

(1) 感染症予防

令和7年度は、新型コロナウイルス（8月、9月、10月、2月）、インフルエンザ（11月）と複数回にわたり利用者様が罹患されました。感染予防対策を講じたことによりほとんどのケースでは同室の利用者様のみ等、最小限の拡大で抑えることが出来ましたが、10月に新型コロナウイルスが発生した際には、利用者様9名と職員3名の計12名が感染するクラスターとなってしまった為、感染対策や物品の見直しを行いました。

(2) 事故発生防止

発生事故について、委員会、フロア会議等にて原因究明、予防策の検討を行うことで事故発生防止及び再発防止に努めました。

(3) 虐待防止・身体拘束廃止対策

虐待防止研修及び高齢者虐待防止に係る一斉点検の実施。不適切ケアについての検討などを行い、虐待防止に努めました。

身体拘束については、経鼻経管栄養利用者および胃ろう利用者の自己抜去防止の為、ミトンを使用した身体拘束を実施していますが、毎日、一時解除し、清拭・マッサージを行うと共に状態を観察し、解除に向けた検討を委員会にて行いました。

5.人材育成

(1) 施設内研修・訓練の実施

1月より法人主導による研修も開始され法定研修を含む様々な研修・訓練を施設内にて開催しました。下記の集合研修に加え、施設で契約を行っているeラーニング「ジョブメドレーアカデミー」を活用し毎月の動画視聴による研修や外部研修への派遣も行い職員の知識・技術の向上を図りました。

(施設内集合研修)

	研修名
1	災害 BCP 訓練／研修
2	感染 BCP 訓練／研修

3	褥瘡予防研修
4	虐待防止研修
5	車椅子研修
6	認知症研修
7	入浴研修
8	避難訓練

(外部研修)

	研修名	参加職員
1	介護保険施設等看護研修 Ⅰ「基礎レベル」 Ⅱ「中堅レベル」 Ⅲ「管理力養成」	看護職員
2	定着支援セミナー「救命講座」	特定技能実習生
3	認定調査員新規研修	介護支援専門員
4	高齢者施設向け 感染症対策研修	介護職員
5	給食施設栄養管理研修	管理栄養士

6. 委員会の及び会議の開催

(1) 委員会・会議の開催

定期的に委員会・会議を開催し様々な検討を行いました。

	名 称	開 催
1	苦情要望検討委員会	月 1 回
2	看取り準備委員会	月 1 回
3	身体拘束 0 対策委員会	月 1 回
4	事故対策委員会	月 1 回
5	褥瘡対策委員会	月 1 回
6	食中毒・感染対策委員会	月 1 回

7	安全衛生委員会	月 1 回
8	見守り器具検討委員会	月 1 回
9	入所判定会議	随時
10	運営会議	適宜
11	給食会議	月 1 回
12	フロア会議	1 階（奇数月） 2 階（偶数月）

7.施設行事・レクリエーション

日々実施するレクリエーションや毎週開催するコーヒー喫茶、毎月実施するお誕生日会に加え、花見・初詣等、施設の外に出かけるレクリエーションを含む季節行事の開催及び給食委託会社と連携した行事食の提供等を行うことで利用者様に季節を感じながら楽しんで頂きました。

Ⅲ 横浜市阿久和地域ケアプラザ

1. 総括

- (1) 令和7年度の事業運営につきましては、行政と地域が連携し活発な取り組みが行われている地区であり、地域ケアプラザとしても地域にとって一番身近な公共の施設として、関係機関との連携を深めケアプラザ全体で地域福祉に取り組みました。
また、新たに横浜市より第5期（令和8年4月より5年間）指定管理を受託し、引き続き運営をさせていただくことになりました。地域福祉計画推進の為、地域の皆様と共に「ともに支え合う安心の地域づくり」に各種事業の推進に努めて参ります。
- (2) 収益については、デイサービスにおいて利用者数が増加傾向となりました。引続き感染防止を徹底しつつ、収益改善に向けてのデイサービスの稼働を増加させる取り組みの一方、介護職員不足が喫緊の課題となりました。
- (3) 安定した組織運営と組織力の強化を図るべく、職員との個別面談・職員会議・各事業単位の会議を積極的に開催し、問題点の洗い出し、情報の共有化、課題解決に向けたモチベーションアップに努めました。
- (4) 人材確保に向けて本部と連携し求人募集を継続して行っています。
- (5) 地域包括支援システムについては、社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャーの連携だけでなく、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターとも連携し、体制強化を図りながら、様々な活動に取り組みました。
- (6) 年間の人材育成・研修計画を作成し、職員を積極的に研修・会議等に参加させ、地域ケアプラザ全体の資質向上に努めました。健康福祉局が主催する地域福祉や包括支援の研修、市で実施する業務別研修、区役所主催の研修、県等の他機関が開催する研修など多数受講しました。また、外部研修だけでなく職員からの要望に対応し、施設内で接遇研修や介護技術勉強会も行いました。

2. 各種部門の事業報告については次ページ以降、横浜市瀬谷区提出事業報告書のとおりです。

令和7年度阿久和地域ケアプラザ事業計画書・報告書(施設運営、介護保険事業)

1 施設の適切な運営について

	公正・中立性の確保について	コンプライアンス等への対応について (事故報告、個人情報保護、備品管理簿)
取組計画	地域ケアプラザの役割として、地域住民や団体に対し公平中立な立場を保っていく。 相談業務等での事業所の選定についてもハートページ等を提示し公平中立な対応をしていく。	介護保険法、老人福祉法をはじめ関係法令を遵守し、誠実に業務を遂行する。 個人情報については、個人情報の保護に関する法律及び関係法令を遵守し秘密保持に努める。 事件、事故等を最小限に抑える事に努める。
実績	地域ケアプラザとして地域住民や団体に対し公平中立な立場を守った相談業務等で、事業所の選定についてもハートページ等を提示し公平中立な対応をした。	関係法令を遵守し、誠実に業務を遂行した。 個人情報保護に関する法律および関係法令を遵守した秘密保護に努めた。事件、事故を最小限に抑える事にも努めた。

2 指定介護予防支援事業、居宅介護支援事業

	指定介護予防支援事業 第1号介護予防支援事業	居宅介護支援事業
目標	要支援高齢者や事業対象者が住み慣れた地域で自分らしい生活を維持できるよう支援する。	地域のご高齢者の方が介護認定を受けても不安なく生き生きとご自宅での生活を過ごせるように支援致します。
利用料金	【サービスに係る費用】 指定介護予防支援に要する費用の額の算定に関する基準(厚生労働省告示第百二十九号)及び横浜市介護予防ケアマネジメント実施要綱に基づく金額 【サービスに係る費用】 指定介護予防支援に要する費用の額の算定に関する基準(厚生労働省告示第百二十九号)及び横浜市介護予防ケアマネジメント実施要綱に基づく金額	【サービスに係る費用】 指定居宅介護支援に要する費用の額の算定に関する基準(厚生省告示第二十号)に基づく金額 【サービスに係る費用】 指定居宅介護支援に要する費用の額の算定に関する基準(厚生省告示第二十号)に基づく金額
職員体制	社会福祉士1名、看護師1名、主任介護支援専門員1名。 (専従常勤3名)	主任介護支援専門員2名(管理者1名兼務) ※常勤換算2.0人
契約者数	322	50

3 通所系サービス事業

	通所介護・第1号通所介護	(介護予防)認知症対応型通所介護	地域密着型通所介護
目標	地域のご高齢者が、可能な限り居宅で個々の能力に応じた日常生活を営むことが出来るようお手伝いを致します。		
実施体制	【実施日数】年末年始を除く359日 【提供時間】9時50分～15時30分 【定員】35名	【実施日数】 【提供時間】 【定員】	【実施日数】 【提供時間】 【定員】
利用料金	【サービスに係る費用】 指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準(厚生省告示第十九号)及び横浜市介護予防・日常生活支援総合事業実施要綱に基づく金額 【要介護1】611円/1回【要介護2】721円/1回【要介護3】833円/1回【要介護4】943円/1回【要介護5】1055円/1回【介護加算】入浴加算Ⅰ43円/1回、サービス提供体制加算Ⅱ19円/1回、中重度者ケア体制加算49円/1回、口腔機能向上加算(Ⅰ)160円/月2回以上(Ⅱ)100円/月1回以上 【その他料金】	【サービスに係る費用】 指定地域密着型サービスに要する費用の額の算定に関する基準(厚生労働省告示第百二十六号)及び指定地域密着型介護予防サービスに要する費用の額の算定に関する基準(厚生労働省告示第百二十八号)に基づく金額 【その他料金】	【サービスに係る費用】 指定地域密着型サービスに要する費用の額の算定に関する基準(厚生労働省告示第百二十六号)に基づく金額 【その他料金】
職員体制	管理者1名(兼務常勤・相談員)、生活相談員4名(常勤)、看護師3名(常勤1・非常勤2)、介護職員5名(非常勤)、機能訓練指導員4名		
契約者数等	【延べ利用者数】8886 【契約者数】101	【延べ利用者数】 【契約者数】11	【延べ利用者数】 【契約者数】

阿久和地域ケアプラザ

令和7年度 自主事業計画書・報告書

■ 事業

- 1: 地域活動交流事業 2: 地域包括支援センター運営事業
3: 生活支援体制整備事業 4: 共催(1と2) 5: 共催(1と3)
6: 共催(2と3) 7: 共催(1と2と3)

■ 事業の性質

- 1: 優先的に取り組み
2: 順次実施活動に発展させることを
ねらいとした事業

■ 主な対象者、従たる対象者

- 1: 高齢者 2: 障害児・者 3: 養育者及び乳幼児
4: 子ども・青少年 5: 地域 6: 事業者
7: その他

No	事業名	開始年度	事業	事業の性質	事業目的	主な対象者	従たる対象者(複数選択可)	事業内容・実施時期	合計			
									実施回数	うちオンライン実施回数	延べ参加人数	うちオンライン参加人数
1	原小学校個別支援学級出張プログラム	平成24年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	生徒とつながることで地域での見守りを継続する。生徒ひとりひとりの社会性を高める。親の見える関係づくり、小学校の教員との連携強化を図る。	2: 障害児・者		原小学校個別支援学級を訪問し、ケアプラザが持っているノウハウを生かした支援を実施。音楽やリズムに合わせて身体を動かしたりするプログラムを提供。年10回程度。	8	0	167	0
2	阿久和カローリング交流会	平成26年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	誰でも出来る室内スポーツ、カローリングから生まれた「カローリング」を通して、小学生・中学生から高齢の方、障がいのある方もない方も一緒に楽しめる多世代交流。お互いを見守り、親の見える関係づくり。	7: その他	1: 高齢者、2: 障がい者、4: 子ども・青少年	阿久和北部と阿久和南部のスポーツ推進委員会を中心に、カローリングを対戦形式にて実施。毎月第3土曜日に阿久和地区センターの体育館で開催。	12	0	358	0
3	ボランティア交流スペース	令和2年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	ボランティア同士の交流や活発の機会、および場所の提供を行う。コロナ禍で、居場所・生きがいを感じ失ったボランティアの集約促進の場。	5: 地域	1: 高齢者	毎月2回、阿久和地域ケアプラザにて開催。ボランティア同士の交流をメインに、デイサービスで利用する物の作成等、ボランティア活動も併せて行っていく。	23	0	128	0
4	Let's sing in あくわ	令和7年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	以前好評だった、みんなで歌う企画を形を整えて開催する。地域の方々が気軽にケアプラザに来られるような講座。新しく来賓される方等、広くケアプラザを周知する。	5: 地域		ピアノの山田先生に来ていただき、年6回、数月に開催する。地域の方々がみんなで歌ってつづる場の提供を行う。定員40名程。	5	0	154	0
5	お茶のみ・軽食会ゆるり	平成27年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	軽食を提供する事で地の方との差別化を図り、他のカフェ・居場所に参加されていない方の参加を促進する。阿久和南部地区福祉との共催事業。ボランティアの集約促進の場。	5: 地域	1: 高齢者	誰でも参加できるお茶飲み・軽食カフェ。地区社会福祉協議会、地域のボランティアによって運営。フンプレートランチの提供。コロナ禍で、休止していたが今年度復活。年間3回実施。	4	0	189	0
6	出張 にこてらす	令和5年度	1: 地域活動交流事業	1: 優先的に取り組み	瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」と共催し、阿久和地域の子育て親子(主に未就園児)や地域で子育てを応援している人との交流の場を作り、孤立を防ぐことを目的として開催。	4: 子ども・青少年		偶数月の第4金曜日に、阿久和地域ケアプラザで開催する。他の親子との交流やプログラムを通じて、子育ての見えしを待てるように支援する。	5	0	105	0
7	スマホ講座	令和2年度	3: 生活支援体制整備事業	1: 優先的に取り組み	高齢者の生活支援・高齢者の外出促進・多世代交流	1: 高齢者		スマホの使い方講座 4/12、6/14、8/9、10/11、12/13、2/14 阿久和地域ケアプラザ多目的ホール 阿久和南部地区福祉と共催で開催	5	0	70	0
8	カフェオアシス	令和6年度	3: 生活支援体制整備事業	2: 発展させるねらい	誰でも参加できるコミュニティカフェとしてのカフェオアシスを後方支援する。	1: 高齢者	5: 地域	4/23、6/25、8/27、10/22、12/24、2/25 ケアプラザ多目的ホールにて開催	6	0	112	0
9	月いち太陽deGOGO	令和7年度	5: 共催(2と3)	2: 発展させるねらい	ケアプラザから距離がある地域に、介護予防体操サークルを立ち上げる	1: 高齢者	5: 地域	介護予防体操講座 4/10、5/6、12/7、10/9/11 活動ホーム太陽にて開催	5	0	114	0
10	介護らく楽講座	H27年度	2: 地域包括支援センター運営事業	1: 優先的に取り組み	介護する方、される方に対し、介護に関する情報提供を行う。	5: 地域	6: 地域	介護に関する情報提供 おむね毎月第4金曜日14:00～15:30	12	0	216	0
11	チームオレンジ映画上映会	R7年度	7: 共催(1と2と3)	1: 優先的に取り組み	認知症を患うかたを介護するキョメンジャー映画を放映することでその戸惑いや苦労を感じてもらい、地域ぐるみで本人やその家族を支えることの大切さを考えるきっかけとしたい。	5: 地域	7: 地域	映画「ぼけますから、よろしくお願ひします」を上映。11/15 原中コミュニティにて開催予定。	1	0	42	0
12	チームオレンジ集まるカフェ	R7年度	7: 共催(1と2と3)	2: 発展させるねらい	認知症のかたを交えて、それぞれの出身地を紹介するカフェを開催し交流する。認知症のあるかたと交流することで認知症の理解を深めたい。	5: 地域	8: 地域	集まるカフェ 上半期1回開催予定。	2	0	57	0
13	認知症サポーター養成講座		7: 共催(1と2と3)	2: 発展させるねらい	認知症症状のあるかたも自分の地域で生活できるよう、地域住民への認知症の理解を深めたい目的で開催する	5: 地域	9: 地域	原小学校6年生対象認知症サポーター養成講座 下半期計画 阿久和地域ケアプラザ 下半期計画	8	0	164	0
14	エンディングノート講座		2: 地域包括支援センター運営事業	1: 優先的に取り組み	自身の判断力が衰えたり意思表示ができなくなったりした時にも思いを伝えられるツールのひとつとしてエンディングノートを紹介する講座を開催する。	5: 地域	10: 地域	エンディングノート講座 上半期1回開催予定。	3	0	57	0
15	サロン交流会	R7年度	5: 共催(1と3)	1: 優先的に取り組み	高齢者サロンの利用手帳に、サロンで使えるゲームやスポーツを紹介し、サロンのプログラムのひとつにしてもらう。	5: 地域		8/30 ライフサイクルゲームの紹介 10/30 情報交換とポッチャ体験	3	0	40	0
16	よこはまシニアボランティアポイント登録会	R7年度	5: 共催(1と3)	1: 優先的に取り組み	ボランティア活動をされている方や興味がありこれから始めたい人に対して、講座を行う。	5: 地域		7月25日 よこはまシニアボランティアポイント登録会を開催	1	0	7	0
17	あくわとにプロジェクト	R7年度	5: 共催(1と3)	1: 優先的に取り組み	地域にある施設や事業所が連携して、地域支援を行うためのネットワーク構築を目指す。	6: 事業者	5: 地域	5月14日、8月20日 ネットワーク会議	2	0	28	0

令和 7 年度社会福祉法人湘南遊愛会事業報告

IV 軽費老人ホーム ケアハウスゆうあい

1 総 括

令和 7 年度は、ケアハウスの稼働率改善および特定施設入居者生活介護契約者の増加に向けた取り組みを継続し、安全・安心な生活環境の提供に努めました。レクリエーションや各種イベントについても、利用者の皆様の生活意欲向上を目的に、コロナ禍前の水準を目指して活発な活動を展開いたしました。また、昨年度は介護分野において人材確保や処遇改善が全国的な課題として取り上げられ、外国人材の活用推進が注目されました。当施設においても、外国人職員の活躍もあり、介護サービス品質の向上に寄与しました。

また、継続的な営業活動や地域情報誌への掲載などの取り組みにより、地域の居宅介護支援事業所や紹介事業者における当施設の認知度が高まり、入居申込は概ね安定して推移しました。これらの取り組みの結果、稼働率の維持・向上と特定施設契約者数の増加を図ることができ、利用者の皆様に安心して生活いただける施設運営を継続することができました。今後も社会情勢や制度改正の動向を踏まえつつ、より質の高いサービス提供に努めてまいります。

2. 稼働状況（ケアハウス及び特定施設入居者生活介護）について

令和 7 年度稼働状況（定員 139 名として）

	令和 7 年度				令和 6 年度			
	ケアハウス (人)	特 定 (人)	合 計 (人)	稼働率 (%)	ケアハウス (人)	特 定 (人)	合 計 (人)	稼働率 (%)
4 月	3116	807	3923	94.0	3000	900	3900	90.5
5 月	3258	806	4064	94.3	3206	899	4105	95.2
6 月	3190	782	3972	95.2	3145	840	3985	95.5
7 月	3279	833	4112	95.4	3243	860	4103	95.2
8 月	3244	818	4062	94.2	3289	812	4101	95.1
9 月	3103	810	3913	93.8	3234	846	4080	97.8
10 月	3316	836	4152	96.3	3348	904	4252	98.6
11 月	3266	810	4076	97.7	3239	810	4049	97.0
12 月	3357	831	4188	97.1	3317	865	4182	97.0
1 月	3310	834	4144	96.1	3284	806	4094	95.0
2 月	2968	715	3683	94.6	2969	765	3734	95.9
3 月	3298	754	2544	94.0	3293	867	4160	96.5
合計	38705	9636	48341	95.2	38567	10174	48745	96.0

昨年度の特定施設入居者生活介護契約者につきましては平均 29.3 人と減少いたしました。減少の原因として、ご入居後 10 年前後の長期ご入居者の退去があげられます。特定施設入居者生活介護以外のケアハウス全体においても長期入居者の方のご退去も相次ぎましたが、入居待機者も多数あり施設全体としての稼働率は 95.2%と前年比-0.8%と小幅な減少に収まっております。今後もしばらくは、冬季の体調不良、ADL 低下による他施設への転出及び入院後の転出など退所者が続くことが考えられます。

昨年度は入居待機も含め入居申し込みが概ね安定しており、3 年前より継続的な営業活動及び地域情報誌などの掲載などを行いう事により、老人ホーム紹介業者や居宅事業所などにケアハウスゆうあいの存在が定着してきたと効果と思っております。

3. 特定施設入居者生活介護事業について

特定契約者数が平均 29.3 人と前年度よりも 7.8 人マイナスの結果となりました。要因として、ケアハウス長期入居者の高齢化が進み、ADL が低下し特養や療養型施設への転出が多くみられました。既入居者への積極的な特定施設入居者生活介護への契約変更の推進なども行っておりますが、退去者が契約者を上回る事も多く、今年度は新たにケアハウス入居より特定施設入居者生活介護契約とする等により契約者数の回復に繋がたいと考えております。

<年間介護度別利用者数>

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	その他	計
25 人	67 人	76 人	127 人	30 人	17 人	6 人	4 人	352 人

・ 平均介護度 1.6

4. 人材育成について

令和 7 年度は職員 35 名中、中国人職員 1 名、特定技能実習生はミャンマーからの 4 名インドネシア 1 名、中国人留学生は 2 名となっております。中でも介護福祉士 2 名、語学に関して N2 に合格 2 名と業務以外の能力も高い、勤勉で真面目な人柄の外国人職員が多く在籍しており利用者様からの評判も大変良く、当初心配しておりました言葉の壁、文化の違いなども大きなトラブルもなく推移しております。とはいえ、それなりに軽微なトラブルもありますが、ご利用者様のご助力、ご理解もあり良好な関係を維持しております。また、施設全体として毎月各種研修を行い知識、技術の向上に向けた研修などを日本人職員、外国人職員同様に行っておりました。インターネットによる動画研修も定着しており効率的な研修が行われております。

5.業務継続計画（BCP）について

業務継続計画を感染症編、災害編と訓練を実施いたしました。また、スマホを利用した安否確認サービス（エマージェンシーコール）も実施し、本部主導にて訓練も実施しました。また、昨年度はBCPの訓練にて職員より意見のあった職員用寝袋20枚、非常用バッテリー2台、バッテリー充電用ソーラーパネル、充電式ランタン、ヘルメットなど災害備蓄を充実させております。

6.入居者満足度向上について

令和7年度運営懇談会を令和8年4月4日（土）に実施いたしました。

以下に事前のアンケート調査結果を取りまとめ致しました。

自由意見としてレクリエーションの内容に関する事（体操の難易度アップ、カラオケの回数を増やして欲しい等）が多く聞かれました。これらご意見は施設全体として活気が徐々に戻っている証ではないかと思っております。

（アンケート回答者 98 名）

評価		① 職員の対応	② 施設的环境	③ 食事	④ 入浴
5 点	大変良い	68	53	24	31
4 点	どちらかといえは良い	21	28	29	31
3 点	普通	9	17	30	28
2 点	どちらかといえは悪い	0	0	5	1
1 点	大変悪い	0	0	7	0
合計		98	98	95	91
平均点		4.6	4.4	3.6	4.0

7.組織意識、価値観の共有について

法令、規程を遵守し安全安心な施設運営を徹底するように努めました。

特に事故防止、感染防止、苦情解決の3点は施設運営の要として、職員一人一人に反映されるように努めました。

8. 施設環境について

施設全体における経年劣化が進行し、設備の不具合が頻発しております。計画的な修繕計画はもちろんの事、緊急性や必要性に考慮して随時対応を行いたいと思います。

9. 行事について

昨年度も毎月イベントを企画して実施してまいりました。ケアハウスの特色として外国人職員による歌や踊りを敬老会やイベント時などに披露していただき国際色豊かなイベントも行っております。毎年恒例の夏祭りでは、コロナ禍では行えなかった出店や盆踊りなどで多いに盛り上がりました。

令和7(2025)年度社会福祉法人湘南遊愛会

V 特別養護老人ホームゆうあいの郷衣笠 事業報告

1 基本方針

- (1) ご本人・ご家族とのコミュニケーションを密に行う事で、望む生活を知ることが出来、『出来る限り自立した、その人らしい生活を送る』介護サービス（個別ケア）を法人理念の『遊び・愛・会話』の三つの心でお手伝いし、三者満足（ご本人、ご家族、施設）の実現に向けて心のこもったケアを心掛けました。
- (2) 研修の機会を多く取り入れ、特に認知症に関しては横須賀地区高齢者施設連絡会との連携で、他施設職員との研修に参加し、知識と技術の向上を目指しました。

2 重点項目

- (1) 生活の質の向上：ご本人・ご家族との信頼関係を深め、高齢者介護の基本（共有・共感・利用者理解）を常に念頭に置き、介護知識・技術の向上に努め『思いやりの心』で接しました。
- (2) 公平・公正な施設運営と法令順守：入居者の人権擁護の為に自己点検・助言できる職場環境を目指し、清廉な施設としてケアと運営に当たりました。
- (3) 稼働率の安定を図るとともに算定要件を満たす事で可能な限りの加算を申請し、施設収入増を図る為算定に必要な事務作業などの効率化に努めました。
- (4) 必要な人材の確保、配置を行い、業務の適正化を目指しました。
- (5) 委員会・研修・OJTを連動させて、個人・組織の能力向上を目指しました。
- (6) 感染症の予防・拡大防止を心掛け、ウィルスを『持ち込まない』『広げない』為に衛生管理・環境整備を徹底し、ご家族面会時、外出時は、ご家族の協力が大きな支えとなりました。

3 事業施策

- (1) 職員一人ひとりが社会人・組織人としての自覚を持ち、法令・規程に則った、信頼性と透明性の高い施設運営を行います。
 - ア 職員・リーダー・管理職との意思疎通のできる風通しの良い組織作りを行い、職場のモラル維持とチームワークの向上を目指し、良いモチベーションを保持できる様努めました。
 - イ 組織の目標と個人の目標との整合性を図りながら、能力向上や人格形成のため、出来るだけ会話やグループや個別面談の機会を作りました。
 - ウ 法令や規程をよく理解し、業務管理・労務管理、適正な会計業務を行えました。
- (2) 稼働率を高め、加算要件の充実を図り、収入増を図ります。
 - ア 目標平均稼働率：本人所 97% に対し 92.7%（入院外泊等を除いた実質稼働率）、短期入所 80% に対し、72.2%と、目標達成はかないませんでした。
伸び悩む要因としては待機者が少ない＝知名度が低いと考え、対策を行ってゆきます。
 - イ 申込者を増やすとともに、退去後の空室期間を短縮出来るよう、上位待機者のフォローアップに努めます。
 - ウ 条件整備を行い、来年度取得に向け、生産性推進向上加算・協力医療機関連携加算の準備取り下げた日常生活継続支援加算再取得に向けて取り組みました。
 - エ 医療依存度の高い方の受入が出来る様、医療面での知識・技術・資格の取得に努めました。
 - オ ホームページの更新はあまり出来ませんでした。来年度は SNS での広報活動を実施します。
 - カ 多様なイベント（横須賀高齢者介護シンポジウム、介護の魅力発見展示等）に参加し、広報機会を増やしました。
 - キ ご利用者ご家族や居宅事業所を情報発信源として大いに活用しました。
- (3) サービスレベル維持向上、新規入居者のスムーズな入居のための適切な人材確保と効率的なシフト運用を行いました。
 - ア 介護職員は常勤の定員を維持し、さらに非常勤のサポートにより、ユニットケアが可能な、穴のないシフト運用を目指しました。

- イ 非常勤は適正な人員配置を行い、ユニット間のバランスを確保しました。
- ウ 多職種とユニットリーダーが連携し、人材の効率的な運用と組織の活性化を図りました。
- エ 欠員が発生した場合のユニット間の人員フォローを迅速に行える仕組み・体制を整え、急な感染症や職員の欠員時に効果を発揮しました。

(4) ユニットの独自運営に加え、組織間の連携の強化に努めました。

- またカンファレンスを通じた多職種間の情報共有により、ケアの充実を図りました。
- ア ユニットケアの本旨を理解し、入居者に寄り添った個別ケアの向上に努めます。
- イ 施設の事業計画に則した各ユニットの方針を明確化し、全職員が周知します。
- ウ ケアマネージャーを中心に多職種でのカンファレンスで立案した個別ケア計画を、関係者が共有し、ユニットでは方針に沿って統一したケアを実施しました。
- エ 看護体制を整備し、安全・安心な入居生活を過ごす為に、医療面でのサポートを強化しました。
- オ 入居者の栄養状態や嗜好の変化を的確に把握し、管理栄養士を中心に個別栄養管理の充実を図り、おいしいと言って頂ける献立と環境整備を行いました。

(5) 研修やOJTを通じた介護力の向上に努め、入居者やご家族に納得いただける介護を目指しました。

- ア 看取り研修を継続的に行い、終末期に向けた介護に対する施設としての基本姿勢・方向性を共有し、ご家族と共に心のこもった最期をお手伝いできました。
- イ 認知症の理解を促進し、入居者への対応姿勢を見直し、介護力の向上を図りました。
- ウ 介護で使用する用語や基準等を統一し、介護業務の標準化を図りました。
- エ 喀痰吸引の有資格者の研修（内部・外部）を実施し、対応の充実に努めましたが、現時点で吸引が必要な入居者がいないため実地研修が行えませんでした。
- オ ユニットリーダー研修をはじめ職種別の外部研修には積極的に出席し、また受講者は施設での研修成果を活かすための報告や勉強会を実施しました。
- カ ユニット内でのOJTを実施し、個々の目標レベルに応じた教育と評価を行いました。
- キ 介護技術だけでなく、ご家族・入居者に対する接遇の向上を目指しました。

(6) 委員会の機能、権限を強化し、施設横断的な課題解決を行いました。

- ア 委員会は、リーダーを通じて職員全体に伝達が届くよう開催いたしました。コロナ発生時には、できるだけ多くの職員が参加できる会議体（施設内メールやリモート参加等）を検討していましたが、すべて通常の委員会を行う事が出来ました。
- イ 委員会の決定事項はリーダー会議・フロア会議・ユニット会議等を通じて組織・職員へ浸透しています。
- ウ 事故対策を徹底して実行し、重大事故の削減を目指しました。
- エ 健康管理、施設環境整備、予防対策を推進し、施設内の感染症の発生、拡大を防止に取り組みました。
- オ 入居者の安全確保と人権擁護に注力し、身体的・精神的苦痛の排除に努めています。
- カ 防災・防犯対策に取組み、施設の安全性を高めます。また備蓄品の管理体制や更新の充実を図りました。

(7) レク活動や行事を通じて、入居者の潤いのある生活感の実現や、ご家族との交流を深めるため、“with コロナ”新しい施設サービスとして、面会の自由化、外泊・外出の自由をルール化して、ご家族と共に明るく活気ある日常を送って頂けました。

- ア 入居者が生きがいを持って暮らしていただける様、日頃からすべての入居者と職員とが良好な人間関係を保てるよう努めました。
- イ ユニットではレク活動を日常生活の一部として考え、積極的に取り組みました。
- ウ 入居者が受け身ではなく、自ら参加したくなるようなレク活動を企画実行しました。（ドーナツバイキング・ワッフルづくり等）
- エ 町内会の協力も得ながら、秋祭りを施設全体で盛り上げる事が出来ました。（ゆうあいGOGO 祭り等）

オ レク委員会が中心となって、行事の年間計画を作成、実施するとともに、ユニットレクとの連携を図る事が出来ました。

4 ユニットケア

◎すずらんユニット

目標：コロナウィルスの発生もあり家族の面会が少ない中、私たちがさらに寄り添わなければならなかったが、うまくできなかった。

方針：日々の業務をこなす事に目が行ってしまい、実現できていない。

まずはどういう思いを持っているのかを考えていきたい。

実施内容：

- ・頭では理解している。あとはきちんと行動に移したい。
- ・仕事の効率化を行い、もっと寄り添える時間を持ちたい。
- ・職員間での情報共有・個別ケアの実施がプラン通り行えた。
- ・清潔な生活環境を保つ事が出来た。今後も継続してゆく。

◎ベニバナユニット

目標：ADLの維持や向上に繋がる対応が行えている。

方針：各入居者様の身体状態を把握し、適切な対応を行う。

実施内容：

◎ヤマユリユニット

目標：ほぼ達成できたと思う。今後日常のレクを充実させてゆきたい。

方針：・ユニットケア等でその都度検討してきている。今後も継続してゆきたい。

実施内容：

- ・今までも多職種の職員と連携が出来ている。今後も継続してゆきたい。
- ・家族面会時、最近の様子などを伝え、コミュニケーションを取っている。今後も継続する。
- ・入居者様個々のADLに合わせてケアを行っている。今後も継続。
- ・今まで協力ユニット職員とコミュニケーションを取ってきた。異動や採用などで新しい職員もいるので、積極的に声掛けなどを行ってゆきたい。
- ・居室の整理整頓が出来ていないところがあった。(ユニット共有部も)今後も清潔な環境づくりを行ってゆく。

◎キキョウユニット

目標：困りごとや不安がないよう配慮し楽しく過ごせる様配慮できた。

方針：・入居者様一人一人に合ったサービス提供、ADL変化時に 即時対応し安楽に過ごせる生活の提供が行えた。状態変化にすぐ気づき、安楽に過ごせるよう努めた。

- ・衛生管理・環境整備に努めました。
- ・楽しさ、季節感のある余暇活動(様々なレクで季節を感じてもらえた。)を行った。
- ・意見や不安を言い合える職員関係の構築及び迅速に情報共有し多職種との連携が取れた。

実施内容：

- ・入居者様の生活状況や健康面の状態などの情報を共有し、その人が安楽に過ごせるケアの提供に努めます。
- ・心身ともに安心・安全・健康に過ごせるための衛生管理・環境整備に努めます。
- ・入居者様のADLに合わせ、楽しく過ごせる時間の提供、季節感を味わえる環境づくりや活動の提供に努めました。
- ・ユニット職員間、ユニットの雰囲気を良好に持ち、なんでも言い合える関係構築、及び多職種の連携を取り入居者様に最適なサービス提供を行う事が出来ました。

◎キンモクセイユニット

目標：入居者様と職員同士思いやりを持って接するユニット。

方針：相手に対し、思いやりの心を持って接しよう。

実施内容：

- ・入居者や同僚の事を考えて、行動する事は困難でしたが、他の入居者の事も考えて皆が協力し合い、より良いユニットを目指すことは常にできていた。

◎ツバキユニット

目標：寝たきりの入居者はほばいないので、毎日全員が離床し、明るく過ごせています。

方針：・その人に合ったケアプランなどの支援を実施できた。

・毎日元気に挨拶をしてから業務に入ることが出来た。

実施内容：

- ・申し送りノート等を活用して、職員全員が情報共有し、統一したケアを実施できた。
- ・お互いに、教えたり学んだりできる環境にするよう、努めており、実施している。
- ・ユニットミーティングを開催し、入居者様の体調変化等、情報共有が行えた。

◎シオンユニット

目標：申し送りノートの活用と口頭での申し送りで達成できた。

方針：・特定の方への対応で全員にかかわる時間が均等でなかった。

実施内容：

- ・ケアプランを把握し、プランに沿ったケアが行えた。
- ・他部署への報告、ケア記録での共有が行えた。
- ・ユニット会議の開催が行えていない。
- ・年間行事は行えたが、ユニット内でのレク企画は出来なかった。
日々の工作や散歩は出来る限り行った。

◎フタリシズカユニット

目標：・入居者様の気持ちに寄り添い、信頼のある安心できるユニット。

・入居者、職員共に笑顔で楽しく過ごせるユニット。

方針：・ご家族の面会時には声掛けさせて頂き、現在の状態や様子をお伝えした。

・体調不良の方以外は対応を変えることなく現状維持の対応を持続しています。

実施内容：

- ・連絡ノートや申し送りで情報共有を行い、必要時には多職種に相談しながら適切な対応を提案できるよう努めた。
- ・飾りつけなど職員が協力し、季節を感じられる環境づくりに努めた。
- ・日頃から日常の会話など、コミュニケーションを取っているが、レクリエーションはほとんどできていない。来年度は沢山行いたい。

◎ヒナギクユニット

目標：入居者の入退所はありますが、元気で健やかに過ごせていました。

方針：日々取り組んで支援援助を行いました。気持ちに寄り添うことが基本ですが、

場合によっては出来なかったこともありました。

実施内容：

- ・個人それぞれに合ったケアを出来るだけ寄り添えた。
- ・職員間の情報共有はされていたが、「前からありますよ」と発言されない事も多くありました。
- ・ゴミは跨がず、目に付いたら拾って捨てる事で、綺麗で明るいユニットが実現できました。

◎ハナミズキユニット

目標：入居者様一人一人の想いに寄り添う姿勢を大切にし、支援を行っている。

方針：・個別性を意識して、出来る限り環境づくりに努めた。

・状態変化に合わせたケアを提供出来ている。

実施内容：

- ・入居者様と関わる中で、得たことをチーム内で話し合い、出来る事は、ケアに反映している。
- ・一部の入居者にはクイズやパターゴルフなど提供できた。企画書を挙げたレクはあまり行えていない。
- ・記録ソフトと申し送りノートに記録を残し、個々での申し送りで情報共有し、家族との情報収集・情報共有に努めます。
- ・入居者様の整容を心掛け継続しています。
- ・チーム内で意識しているが忙しい時間などに気が緩み入居者に気を使わせてしまっている部分があったと感じます。

◎さくらユニット（短期入所）

目標：利用者様が安心して利用いただける環境づくりを継続的に取り組んでおり、概ね良好な関係を築けています。

方針：・レクの充実については定期的に実施できており、利用者様の反応も良好です。
傾聴、寄り添いの姿勢も職員間で意識の共有が図れています。

実施内容：

- ・コミュニケーションの意識づけや体調変化への気づきは概ね実践できています。
- 企画書レクは一部の職員で実施になりました。小規模レクのレパトリーも少しずつ増えてきています。

相談員（短期入所）

目標：在宅の方が利用する施設として明るく、暖かいユニット。

方針：あきらめない・見逃さない

実施内容：

- ・ご利用者様はもちろんご家族様にも寄り添う介護を目指しご本人・ご家族・居宅ケアマネ・施設間の調整を行います。
- ・申し送りがきちんとされていて初めて関わる利用者様にも対応できる。

5、介護支援専門員・生活相談員（本入所）

目標：・稼働率97%を維持。

- ・本入所の入居者様と関わる時間を持ち、アセスメント・モニタリングによりご本人の状態に合ったケアプランを作成する。
- ・入所候補者様のアセスメントを細部迄、しっかり行い入所判定会や受入れユニットに情報提供する。

方針：・入所申し込み者を増やせるように営業します。

- ・その人らしい個々のケアプラン作成に努めます。
- ・入所受け入れ、入所後のケアが出来るだけスムーズに行えるようにより詳しく正確な情報（アセスメント）の確保に努めます。

実施内容：

- ・引き続き、上位待機者を多く確保できる様に居宅事務所や老健等へ空床の案内を行う。
- ・入所申し込みに対して迅速な対応、案内に努め実地調査・診断書の提出など遅れが出ない様にする。

6、医務（看護）

目標：入居者様が安心して快適で楽しい生活が送れる様、スタッフ間の情報共有と医師との連携で支援できました。

方針：看護師間と他部署との連携をとり、入居者様の健康管理に努めてゆきました。

実施内容：

- ・日常の健康観察を行い、体調不良や緊急時は医師報告で指示を受け、対応しました。
- ・医師往診時に状態報告しスムーズな往診が出来る様準備を行いました。
- ・毎日の処方薬のセット後は必ず配薬前にも確認を行う他、ユニットスタッフとのダブルチェックも行う事で誤薬を防ぐ事が出来ました。
- ・夜間オンコール体制で緊急時対応を行いました。
- ・予防接種、定期採血など処置全般の対応を行いました。
- ・ユニットと連携し、一人一人に合った対応を行いました。
- ・カンファレンスの参加により情報共有し個別ケアに繋ぐことが出来ました。
- ・コロナ感染者があり、4ユニットで感染者が確認されました。今後、感染症対応マニュアルの周知徹底に力を入れ、より一層早期に働きかけを行ってゆく必要があると考えます。

7、食事・管理栄養士

目標：・個々の状態に合った柔軟な対応を行い、非常時に備えました。

- ・委託会社との連携、情報共有を行い安定した食形態での食事提供を行いました。

方針：・多職種と連携を取り、入居者様、ご家族様の要望をくみ取り、出来る事、出来ない事のふり分けと対応を行い、ご満足いただけるよう努めました。

- ・委託会社と食事についての情報共
（提供した食事内容、献立、施設全体・個々の状態の伝達）
- ・備蓄の補充

実施内容：

- ・ご家族、入居者様と普段からコミュニケーションをとり、会話から求めている事を
探して行き、ご要望をかなえる事がいくつかありました、
- ・介護の現場から意見を聞き取り食事の状態を観察し、委託会社へ伝達・相談・調整を
行いました。
- ・備蓄食材の買い足し・買い増し・情報共有。

8、機能訓練指導員

目標：・入居者様の個々の状態、ニーズに合わせた機能訓練。

- ・車椅子の点検（安全・清潔保持）

方針：・機能訓練を行うにあたり、入居者個々の状況の把握・身体状況（残存機能・可動域制限など）の把握を行い、マッサージ、リハビリのメニューを決め、ケアマネに相談し実施島斉田
・入居者様の尊厳・尊重を重視しながら個々に合わせた自立生活支援を行い車椅子の
タイヤ圧、部品などの点検と汚れの洗浄に於いても安全・清潔保持に努める。

実施内容：・他部署との連携を図り、意見交換・情報共有に努める。

- ・入居者様個々の残存機能・体の痛みを把握し、マッサージ・リハビリ（歩行・立ち上がり）・
関節屈伸運動など）の提供を行い、痛みの軽減と身体機能を維持しながら自立生活の
支援を行って行く。
- ・集団体操（ラジオ・口腔体操）においても残存機能を維持するのみならず、健康面の増進
の支援に繋げてゆく。
- ・車椅子のタイヤ圧の空気入れと部品（ねじ、ブレーキの効き具合）の確認による安全確保
と車椅子の座面や金属部等の汚れは洗浄する事で清潔保持に努めました。

9、 委員会・職員研修

(1) 委員会

	名 称	開催曜日	目 的
1	運営会議	第 1 水曜日	多職種責任者と各リーダーにより運営に関する重要事項の伝達と相談を行う。
2	入退所検討会	第 1 水曜日・随時	入所希望者及び退所に関する必要事項を定め円滑に行われることを目的とする
3	フロア会議	運営会議前後	運営会議前後にフロアリーダーにより各ユニットリーダーとの情報共有を図る
4	ユニット会議	随時	ユニットと協力ユニットで入居者の状態や介護方針、施設運営に関する情報の共有を行う。
5	事故防止委員会	第 2 月曜日	事故内容を精査・分析し、介護事故の再発防止対策を行う。
6	虐待防止委員会	第 2 月曜日	施設での虐待防止策を検討する。
7	身体拘束防止委員会	第 2 月曜日（隔月）	身体拘束及び心理的拘束を防止する対策を協議する。
8	レク委員会	第 3 月曜日	ユニットレクとの連携を図りながら、施設の行事を企画立案、実施する。
9	感染防止委員会	第 3 月曜日	感染症の知識を持ち、発症蔓延を予防する
10	安全衛生委員会	第 3 月曜日	職員の安全と健康を確保するための対策を検討する。
11	クローバー委員会	第 4 月曜日	看取りに向けた入居者の情報共有と対策を検討する。（看取りカンファレンス）
12	褥瘡防止委員会	第 4 月曜日	褥瘡の知識を持ち、発症蔓延を予防する
13	食事委員会	第 4 月曜日	利用者毎の、食事形態やメニューの検討を行う。
14	安全委員会	第 4 月曜日（隔月）	介護職員による喀痰吸引の安全に行うための知識と対応を身に着ける

(3) 研修計画・行事（レクリエーション）・地域交流

令和7年度 年間研修・行事報告		
内部研修予定		行事予定
4月	緊急時の対応に関する研修 ～AED の使用方法～	お花見
5月	ターミナルケアに関する研修	こどもの日 端午の節句 菖蒲湯 母の日
6月	特定技能職員 認知症初任者研修 施設研修 6/23～7/4 手洗い研修（感染症）6/11～6/19	父の日 ふれあいフェスティバル 作品出品・おやつ作り
7月	AED 研修 7/15 ユニットリーダー研修 7/30～7/31 認知症介護実践リーダー研修 LTC 研修第1回 7/11	七夕 七夕飾り制作 衣笠町内祭礼（神輿鑑賞）
8月	施設長視察研修 8/3,6 認定調査員研修 8/15 給食施設食生活改善講演会 8/5	花火レク 消防訓練 8/12
9月	LTC 研修2（衣笠ホーム）9/19	敬老会 敬老会・長寿者表彰
10月	パラマウント研修 10/22 外：相談援助職の相談援助向上研修 10/22 口腔衛生研修（ヴィレッジ歯科）	ゆうあい郷 GO 祭
11月	外：ファシリテーター研修 11/17 LTC 研修（共楽荘）3 11/12 外：相談援助職の相談援助向上研修 11/25 外：予防について 11/1	健康診断・インフルエンザ予防接種
12月	ほのぼの研修 12/4 第2回施設ケアマネ・相談員研修 12/26	クリスマス会 ゆず湯 餅つき大会 クリスマス会
1月	人間の尊厳 1/8・1/18 認知症ケアで大切にしたい事 1/16 認知症実践者研修	正月 新年会 ゆうあい神社初参り
2月	接遇研修 車椅子研修 2/3 外：意思決定支援はなぜ難しいか？ 2/19 外：相談援助職の相談援助向上研修 2/9	節分 豆まき・鬼退治・おやつ作り
3月	非常災害時の対応に関する研修	ひな祭り 河津さくらドライブ
	ユニットリーダー研修 LTC 研修	

	認知症実践者リーダー研修
横須賀市 施設連絡 会主催研 修	介護技術研修、生活相談・ケアマネ研修、県外視察研修・課題別研修会 第24回シンポジウム

令和7年度事業報告

令和7年度	施設行事	ユニット行事
4月	ペットレク	河津さくらドライブ・ピクニック
5月	端午の節句 菖蒲湯 母の口	ドライブレク（コロナで中止）
6月	父の日 ふれあいフェスティバル	作品展
7月	七夕 衣笠町内会祭礼（神輿見学）	七夕飾り
8月		スイカ割 花火大会 かき氷
9月	敬老会	お月見 園芸レク
10月		昼食レク ハロウィン
11月	衣笠町内会運動会 ゆうあい郷GO祭	
12月	ゆず湯 クリスマス会 大晦日	クリスマスパーティー・忘年会
1月	お正月 元旦、七草、鏡割	新年会 書初め 初参り（ゆうあい神社）
2月	節分 豆まき・鬼退治	お汁粉づくり 豆まき
3月	桃の節句 雛祭り	桜餅づくり
	研 修：事故防止対策研修・感染症対策研修・身体拘束防止研修・看取り研修・その他 各種勉強会 委員会：クローバー委員会・虐待防止委員会・身体拘束防止委員会・事故防止委員会・ 安全委員会	

	食事委員会・感染防止委員会・褥瘡防止委員会・レク委員会・安全衛生委員会・入退所 検討委員会 会議（ミーティング）：運営会議・リーダー会議・フロアミーティング・ユニットミーテ ィング・ 随時の行事：喫茶レク・生け花レク・ボランティアによる鑑賞会・誕生日会
--	--

※新型コロナウイルスの感染状況等から判断し、行事の中止や変更が考えられます。

令和 7 年度 社会福祉法人湘南遊愛会 事業報告

VI ケアプランセンターゆうあい

1. 総括

今年度は 2 名体制で事業運営を行ないました。

近隣事業所との連携が密となり、利用者数も安定し、要介護・要支援ともに多くの相談を受けることができました。

また、今年度は業務継続計画（BCP）の作成と研修、高齢者虐待防止委員会などを実施し、法改正への取り組みを行ないました。

事業所の基本方針である、要介護状態又は要支援状態にある利用者自らの意思を尊重し、その有する能力を最大限に活かし、住み慣れたご自宅で可能な限り自立した質の高い生活を営み、状態の悪化を予防できるよう医療・福祉の関係機関と連携し、公正中立の立場で地域に根ざした総合的な支援を行うよう基本方針に則った業務を行なうことができました。

2. 稼働状況

目標としてケアマネ 1 名に対し最高で 35 名（要支援 20 名、要介護 15 名）の利用者を担当することを計画しました。

職員体制は、1 年を通して 2 名体制で事業に取り組みました。

相談の傾向としては、近隣地域ケアプラザからの関係性が密となり、利用者の相談が多くなる傾向となりました。

また、ケアハウスゆうあいとの連携を密に行ない、ケアハウス利用者の相談対応について積極的に受けました。

近隣地域ケアプラザからの相談を中心にしつつ、さまざまな事業所への働きかけなどについて検討していきたいと考えております。

① 契約件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
要支援	45 名	44 名	46 名	48 名	48 名	49 名
要介護	50 名	52 名	51 名	51 名	50 名	52 名
申請中	2 名	2 名	3 名	4 名	3 名	2 名

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
--	------	------	------	-----	-----	-----

要支援	49 名	52 名	49 名	51 名	52 名	51 名
要介護	51 名	52 名	52 名	50 名	51 名	51 名
申請中	2 名	2 名	1 名	0 名	0 名	2 名

② 担当区域

担当区域については、戸塚区・旭区・港南区・瀬谷区・保土ヶ谷区・青葉区の 6 区を範囲としました。今年度も昨年度に引き続き、戸塚区・港南区・保土ヶ谷区の 3 区からの依頼が多かったため、次年度以降も引き続き、同地区を中心に担当区域として、地域に根差した支援を行なってまいります。

利用者居住区	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
戸塚区	76 件	77 件	79 件	82 件	80 件	83 件
保土ヶ谷区	14 件	14 件	14 件	14 件	14 件	14 件
港南区	6 件	6 件	6 件	6 件	6 件	5 件
青葉区	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件
旭区	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
瀬谷区	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
その他	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

利用者居住区	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
戸塚区	81 件	85 件	80 件	80 件	82 件	83 件
保土ヶ谷区	14 件	14 件	16 件	15 件	15 件	15 件
港南区	6 件	6 件	5 件	5 件	5 件	5 件
青葉区	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件
旭区	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
瀬谷区	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
その他	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

③ 認定調査

今年度は、戸塚区 25 件、保土ヶ谷区 3 件、港南区 9 件、その他地域より 0 件の合計 37 件の認定調査依頼がありました。

今後も、戸塚区との年間契約を結ぶことにより、受託件数を増やしていくことを考えております。

利用者居住区	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
戸塚区	1 件	2 件	0 件	3 件	5 件	0 件
保土ヶ谷区	0 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件
港南区	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	2 件
その他地域	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

利用者居住区	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
戸塚区	1 件	4 件	3 件	1 件	1 件	4 件	25 件
保土ヶ谷区	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	3 件
港南区	2 件	3 件	1 件	0 件	0 件	0 件	9 件
その他地域	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

3. 収益改善と業務改善

ミーティングを 1 か月に 1 回程度定期的に実施することで、各ケアマネジャーの担当件数と、業務の進捗状況の確認などを行ないました。

収益改善については、職員の増員により、担当件数の上限まで利用者を増やすことで、収益アップを目指しました。また、超過勤務が多くならないように、フレックスタイム制による勤務時間の調整や、テレワークや直行直帰などを活用し、日々の業務を行ないました。

業務改善については、相談室からの話し合いなどの声が事務室から漏れてくることが多いため、相談室と事務室のレイアウト変更を 7 月に実施しました。

ご家族からのハラスメント行為があったため、法人本部とともに対応。契約を解除しました。

ご家族や事業所との連絡を LINE や LINEWORKS、ショートメールを活用することでスムーズに行ないました。

ケアマネジャー同士のスケジュール確認や外出時の連絡などに teams を活用することで、職員間のコミュニケーションを円滑にすることができました。

医療連携を強化できるよう、訪問診療の立会、日々の報告・連絡やプランに意見を頂くための文書を直接クリニックに足を運んで持参しました。

ケアハウスの相談員と連携し、ケアハウス入居者の担当を積極的に担うことで、相互に増収を見込むことができるように対応をいたしました。

4. 人材育成

法人内外の研修の情報を積極的に取得し、能力の向上などを目指し、研修受講をすすめ

ていきました。

・施設内研修

入社時に他拠点との連携を持ちやすくするため、内部研修として職員同士の交流の機会を持ちました。また、BCP 研修などを実施することで、緊急時の対応などについて考える機会を持つことができました。研修や話し合いの中で、自然災害や感染症の発生の際に、いかに対応するかについて業務継続計画に基づき、検討をしました。また、緊急時の際に使用する必要物品の購入などを順次進めました。

・外部研修

戸塚区のケアマネジャー連絡会であるケアマネット戸塚に入会し、幹事を担うこととなりました。毎月幹事会に出席し、その中で他事業所のケアマネジャーとの交流や情報交換を行う事が出来ました。ケアマネットやケアプラザを通して研修開催情報を取得し、医師会や他事業所等が主催する研修に積極的に参加することができました。

日程	内容	参加者
2025 年 5 月 23 日	BCP 研修（オンライン）	鍋多
2025 年 5 月 27 日	漢方薬（オンライン）	鍋多、中川
2025 年 7 月 3 日	パーキンソン病研修	中川
2025 年 7 月 29 日	ケアマネサロン	中川
2025 年 8 月 19 日	カスハラ研修	鍋多
2025 年 8 月 29 日	精神科 訪問看護	中川
2025 年 9 月 10 日	カスハラ研修	中川
2025 年 10 月 22 日	ケアマネサロン	中川
2025 年 10 月 28 日	在宅医療介護連携研修	鍋多、中川
2025 年 11 月 19 日	zoom 研修	鍋多
2025 年 12 月 16 日	区役所研修	鍋多
2025 年 12 月 19 日	zoom 研修	鍋多
2026 年 1 月 28 日	主任ケアマネ更新研修	鍋多
2026 年 2 月 12 日	ケアマネサロン	中川
2026 年 2 月 16 日	主任ケアマネ更新研修	鍋多
2026 年 2 月 27 日	主任ケアマネ更新研修	鍋多

5. その他

・ 3 居宅連絡会の実施

2023 年 2 月より、ケアプランセンターゆうあい・ケアプランセンター横須賀・阿久和地域ケアプラザにある 3 か所の居宅介護支援事業所の管理者が集まり、3 居宅連絡会を立ち上げました。

今年度は本連絡会は業務の都合上実施することはできませんでした。

ただ、各事業所からも、日々の業務内容をチェックするために、内部監査や実施指導の内容の共有など、新たな知識を得ることで、業務の見直しを図ることが必要であることのニーズがあり、開催を希望する声も上がっていました。

令和 7 年度 社会福祉法人湘南遊愛会事業報告

VII ケアプランセンター横須賀

1. 総括

今年度はケアマネジャー3 名体制で事業運営を行ないました。

しかし、業績改善が見込まれず、残業などの増加などにより、経営状況が悪化したため、2026 年 3 月 31 日で事業所を閉鎖することといたしました。

2. 稼働状況

目標としてケアマネ 1 名に対し最高で 35 名（要介護 32 名、要支援 6 名 要支援は 0.5 換算）の利用者を担当することを計画しました。

職員体制については、3 名体制で前年度に引き続き、事業に取り組むことができました。近隣事業所からの相談を中心にしつつ、地域包括支援センターからの相談を増やしていくために、さまざまな事業所への働きかけなどについて検討していきたいと考えております。

① 契約件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
要介護	117 名	103 名	99 名	98 名	99 名	101 名
要支援	34 名	32 名	34 名	34 名	34 名	34 名
申請中	1 名	0 名	3 名	3 名	3 名	0 名

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要介護	101 名	100 名	103 名	105 名	107 名	100 名
要支援	34 名	34 名	32 名	32 名	34 名	43 名
申請中	8 名	8 名	7 名	9 名	7 名	10 名

2 担当区域

担当区域については、横須賀市・逗子市・三浦市・葉山町 4 市町を範囲としました。

今年度は、横須賀市と逗子市、三浦市を中心に相談依頼がありました。

担当区域については多くの方のご相談を受けることができました。

利用者居住区	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
横須賀市	143 名	129	130 名	128 名	130 名	129 名
逗子市	7 名	6 名	6 名	7 名	6 名	6 名
三浦市	1 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
葉山町	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
その他	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

利用者居住区	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
横須賀市	134 名	134 名	134 名	138 名	140 名	145 名
逗子市	6 名	6 名	6 名	6 名	6 名	6 名
三浦市	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
葉山町	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
その他	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名

② 認定調査

今年度、横須賀市 36 件、逗子市 5 件、その他地域 1 件の合計 44 件の依頼がありました。

利用者居住区	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
横須賀市	3 件	2 件	0 件	1 件	3 件	2 件
逗子市	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件
その他地域	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件

利用者居住区	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
横須賀市	7 件	4 件	1 件	8 件	2 件	3 件	36 件
逗子市	1 件	0 件	0 件	0 件	2 件	0 件	5 件
その他地域	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件

3. 収益改善と業務改善

事業所訪問を 1～2 週間に 1 回程度定期的を実施することで、業務の進捗状況の確認や必要物品の確認などを行ないました。

収益改善については、担当件数の上限まで利用者を増やすこと、必要物品の購入を最低限に抑えることで、経費削減に努めました。

業務改善については、残業時間の件について話し合いを行い、業務改善や負担軽減について対応を検討いたしました。

ゆうあいの郷衣笠の相談員と連携し、ショートステイ利用者の紹介を積極的に担うことで、相互に増収を見込むことができるように対応をいたしました。

4. 人材育成

法人内外の研修の情報を積極的に取得し、能力の向上などを目指し、研修受講をすすめていきました

・施設内研修

入社時に他拠点との連携を持ちやすくするため、内部研修として職員同士の交流の機会を持ちました。また、3居宅連絡会を実施することで、顔が見える関係をつくることができるようにしました。BCP の改訂などを実施することで、緊急時の対応などについて考える機会を持つことができました。

・外部研修

前年度に引き続き、横須賀市居宅連絡会に入会しました。その中で、他事業所のケアマネジャーとの交流や勉強会などに積極的に参加することができました。

また、各自ケアマネジャー業務に関連する研修に随時参加いたしました。

日程	内容	参加者
2025 年 6 月 12 日	予防プラン研修	品川
2025 年 6 月 13 日	ホスピスに関する研修	福島、品川、佐藤
2025 年 6 月 26 日	逗子保健所研修	福島
2025 年 6 月 30 日	研修	福島
2025 年 7 月 18 日	研修	福島
2025 年 7 月 25 日	研修	福島
2025 年 7 月 28 日	研修	福島
2025 年 8 月 29 日	終活に関する研修	品川
2025 年 9 月 8 日	主任ケアマネ更新研修	佐藤
2025 年 9 月 26 日	主任ケアマネ更新研修	佐藤
2025 年 10 月 2 日	主任ケアマネ更新研修	佐藤
2025 年 10 月 7 日	主任ケアマネ更新研修	佐藤
2025 年 10 月 16 日	主任ケアマネ更新研修	佐藤
2025 年 11 月 12 日	社協連携研修	佐藤
2025 年 11 月 21 日	ハラスメント研修	福島

5. その他

- ・業務継続計画に関する研修の実施と緊急時への必要物品の準備

自然災害や感染症の発生があった際に、いかに対応するかについて業務継続計画に基づき、検討しました。また、緊急時の際に使用する必要物品の購入などを順次進めました。

- ・介護情報サービスの公表制度の実施

事業所の基本情報・運営情報の確認を10月に書面のみで行いました。

- ・居宅連絡会の実施

2023年2月より、ケアプランセンターゆうあい・ケアプランセンター横須賀・阿久和地域ケアプラザにある3か所の居宅介護支援事業所の管理者が集まり、3居宅連絡会を立ち上げました。

今年度は業務上の都合により実施できませんでした。

ただ、日々の業務内容をチェックするために、内部監査や実施指導の内容の共有など、新たな知識を得ることで、業務の見直しを図ることが必要であることを認識しました。